

(様式 2)

「桐生市観光ビジョン（案）」に対する意見提出手続の結果

- 1 意見の募集期間 令和 3 年 12 月 27 日（月）～令和 4 年 1 月 25 日（火）
- 2 意見の提出者数 5 人（直接 2 人、郵送 0 人、ファクシミリ 0 人、電子メール 3 人）
- 3 意見の件数 10 件
- 4 担当部課 産業経済部観光交流課
電話 (0277) 46 - 1111（内線 339）
ファクシミリ (0277) 43 - 1001
電子メール kanko@city.kiryu.lg.jp

5 提出された意見の要旨と考慮の結果

「桐生市観光ビジョン（案）」について意見募集を行った結果、以下のとおりご意見をいただきましたので、ご意見に対する市の考え方を付して公表させていただきます。今後は、いただいたご意見を参考とさせていただいたうえで、桐生市観光ビジョンの策定を進めて参ります。この度は、貴重なご意見、ご指摘をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

(1) 桐生市観光ビジョン（案）についての意見

番号	意見の要旨	考慮の結果（意見に対する市の考え方）
1	<p>基本コンセプト 観光資源発掘、収集より創出</p> <p>観光資源の収集・発掘には限りがある。今の資源を磨いて最大限活用することは大切だが、新たな観光のあり方として今迄なかった物を創り出し、通年の交流人口増加につなげていくことが大切だと思う。川越市のようにだまっても人を呼び込める魅力と資源が集中しているとは思えない。個々にはすばらしい文化遺産、重伝建等点在しているが、点を面にするためには、発想を転換して人を呼び込める魅力的な諸施設を作るしかないと思う。</p> <p>1) 渡良瀬川を売り出す</p> <p>10 万都市のまちの中を流れる清流で鮎つりや清流下りを楽しんでもらえるようなボート遊び、その他 B B</p>	<p>今回の観光ビジョンは、これからの桐生市の観光の方向性を見出す項目を掲出してあります。</p> <p>個々の事業については、現状の観光資源を活かしながら、考えられる範囲で出来ることを示させていただいていますが、ご提案いただいている新たな観光資源の創出や施設をつくることについては、第 3 章 推進計画（P11～）及び第 4 章 観光ビジョン達成に向けた個別事業（P18～）のなかで今後研究しながら対応させていただくと共に、国や群馬県の方針や計画など精査しながら、必要である事業であれば関係部署とも協議し、今後の桐生市の観光施策の参考にさせていただきます。</p>

	<p>Q、オートキャンプ場、本格的なスケートボード練習場等の整備、桐生広場のグラウンドゴルフ場は県大会を誘致できるグレードUPしたグラウンドに改修する。</p> <p>2)黒保根地区</p> <p>黒保根学園:周辺一帯を活用して諸施設を新設する。</p> <p>ゴルフ練習場、グラウンドゴルフ、ドッグラン</p> <p>○合併以前「水源の村」と云っており、きれいで豊かな水と寒暖差の大きい気候でおいしいお米ができています。水車のある水場(バッテリーバ)を活用していた。何ヶ所かを復活させ、体験型の遊び・学びの場を創る。</p> <p>○有識者によるハイキング</p> <p>○登山マラソン大会</p> <p>○花栽培農家見学会、特産品販売商店の試食</p> <p>○源泉露天風呂新設</p> <p>3)その他</p> <p>○有識者監修によるトレイルランニングコース新設</p> <p>○本町通りに公衆トイレの新設</p> <p>○首都圏より大手介護事業運営会社誘致</p> <p>諸施設を作るに当たっては、県内一、県内有数の規模・設備・高感度の施設にすることが重要。愛好家がぜひ行ってみたいと思わせる設定にする。</p> <p>受け入れ側は市民への啓発運動を展開、市民一人一人がおもてなしの心で来客に接し、満足感・充足感をもって帰ってもらえばリピーターになるし、次は友達・家族で行こうとなる。</p> <p>大事な事は、時間が経てば自然と交流人口が増え街に活気が生まれる、そ</p>	
--	--	--

	<p>のような仕組み(システム)を作ることがトップの仕事、行政の仕事だと思う。</p>	
2	<p>今回のビジョンは、「観光人口を増加させることで交流人口を増やす」という戦略と理解しました。</p> <p>手段ですが、「個性」として取り上げられた日本遺産と重伝建についてそれぞれ考えてみたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産について <p>「かかあ天下一ぐんまの絹物語」の構成文化財の13件中6件が桐生にあるということですが、「遺産」なので仕方が無いことと思いますが、現役で動いているものが乏しく、そのものを見ることができないことは、非常にインパクトを弱めています。</p> <p>まずは、6か所の各施設の位置づけを考え、展示内容も実物の生きた姿を見て体験できるようなストーリー作りを準備することが重要と考えます。</p>	<p>ご指摘のとおり、市内6か所の「日本遺産」のストーリーとしての体験ができるよう、第4章の実施事業「日本遺産を活用した観光施策」(P18)で、(1)日本遺産の周知とPRについて記載させていただきました。その中で、桐生市の「日本遺産」のストーリーがアピールできるような施策を展開していきたいと考えております。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・重伝建について <p>本町一二丁目を歩くと、確かに古い家並みが残っていますが、漠然と古く変化していく途中の姿をとどめているようで、「今の時代に生きているまち」という感じはあまりしません。近年、若い経営者により、店として活用も始まりつつあり、喜ばしいことですが、最終的にどのような街並みにしたいのかが見えてきません。観光施策に、「川越のような・・・」とあるので、お土産屋が並んでいる川越や伊勢のおかげ横丁のようなイメージを再現したいのか、とも思いますが、そのような例は全国に多くあり、後発で追いつけるようには思えません。ハードだけの更新を考えているのであれば、</p>	<p>重伝建地区は「日本遺産」構成文化財の一部となっており、「生きたまち」としての姿を伝えられるよう「日本遺産」同様、第4章の実施事業「日本遺産を活用した観光施策」(P18) (3)構成文化財の一つである「重伝建地区」の活用 に記載している周遊観光プランや施設紹介などの観光施策の中で、周知や発信ができるような施策を展開していきたいと考えておりますので、ご理解ください。</p>

これからの人口減少社会の中では、空き家になって放置され、壊されたところから空き地になって行く未来が見えてしまいます。

観光とは「その地域の光を見せる」活動であると言われます。前計画でもこの部分は、非常にこだわったところですが、桐生市は観光として何を見せるのかをよく考える必要があります。現代は、偽物は通じない時代です。「らしく作られたまち」というのは全国にあります。課題として「町は観光というより生活の場として存在している」とありますが、まちは生活の場ですので、もし本当にそうであれば素晴らしいことです。「コンセプトの時代を念頭に、それを生かして日々の生活が行われている町」というのが本来の重伝建のあるべき姿ではないでしょうか。そのような意味では、現状はあまりに中途半端です。

前回の計画では、お金が無くても形になることを目指そうということでしたが、今回は思い切って集中的な投資が必要であるように思います。

外から来てみるだけの観光ではなく再まち建ての観点から、現在の家屋を現代の技術や知見を入れて、町割りを残しつつ新桐生新町として複数世代が共生できるまちを目指してリニューアルし、桐生の周辺山間部の高齢人口も吸収し、若者たちとの共生ができるまちをつくり、そこでの生活が見られる、くらいのビジョンを期待したいと考えます。そのようにして常に幸福感が見える生きたまちが見られるとしたら、他にはない観光資源ともなり、今後求められるSDGsにもつな

	<p>がる持続可能なまちにつながるのではないのでしょうか。</p>	
4	<p>野間清治を観光の目玉に</p> <p>桐生が生んだ雑誌王「野間清治」を桐生の地に講談社より譲り受け観光の目玉にしていけば…</p> <p>今、幸い講談社とのつながり（別紙図あり）も講談社退職者（OB）の方々の協力、働きの協力も得られる状況でもあり、今がチャンスの時でもあると思う。</p> <p>今、私は個人の蒐集で「野間清治資料館」を開館しています。</p> <p>これだけの講談社との関係がある現状です。</p> <p>※現在、空き家となっている野間家関連施設を、桐生市役所、野間家、講談社になる記念館としては…</p> <p>野間清治顕彰会の目的も記念館を開館する事として進めている。</p> <p>少年倶楽部の付録の一部であるが、これだけでも展示するだけでも観光客を呼ぶことが出来る。</p>	<p>いただきましたご意見は、関係する部署とも共有しながら、今後の観光施策の参考とさせていただきます。</p>
5	<p>桐生市観光ビジョン（案）全体に関して</p> <p>(1) 今後5年間の観光客の動向予測について</p> <p>令和8年でコロナ禍前の8割程度の数値目標を掲げていますが、これはコロナ感染に関してどのような状況を基にした数字なのでしょう。コロナ感染の影響が5年後にも相当残っているという判断なのでしょう。</p> <p>コロナの影響が不確定だからこそ、現在のビジョン（案）のやや控えめな想定に加えて、インバウンドも含めて全国的に観光客が急激に増加する状況についても想定した上で、より積極</p>	<p>数値目標については、今後の新型コロナウイルスの状況が見通せない状況での、最低限の数値目標を掲げさせていただきました、状況によっては好転する可能性もありますが、今計画では with コロナを想定したなかで、コロナ前の水準まで戻すことを数値目標としたビジョンとし、それぞれの観光施策を進めていく予定です。</p> <p>重伝健の整備については、関係各所が協議を行いながら計画の推進を図っているところであり、具体的な施策などは整備の進捗状況などを情報共有する中で、観光資源として活用していくことを基本に考えていきます。積極的で具体的な施策を出すべきなどいた</p>

<p>的なプランも並列的に提案すること も必要ではないでしょうか。幸運にも コロナ感染が好転し、With コロナの 状況となったときに、プランがなけれ ばせっかくのチャンスを逃す結果と なります。そのための準備がビジョン (案)にも必要なのではないでしょ うか。</p> <p>(2)重伝建地区の景観の変化について ビジョン(案)には、「構成文化財 のひとつである「重伝建地区」の活用」 (P. 11、P. 18)「重伝建地区にある・・・ 近代化遺産などまちなか周遊観光の 核となるスポットを発信」(P. 13)と いった表現にとどまり、旧増尾邸の活 用以外に、重伝建地区の抜本的な開 発・整備には触れられていません。</p> <p>重伝建地区の整備について聞いた り、2023年は絶好のチャンスという 話を聞いたりしますが、私たち案内人 としても、2023～24年は大きな飛躍 の年になるのではないかと期待して います。</p> <p>このビジョン(案)の策定は「桐生 市」として発信されていますが、実質 的に、実施事業等が観光交流課内のプ ランにとどまっているのではないで しょうか。桐生市の観光行政のための ビジョン(案)であるならば、市長(副 市長・広報監)のもとに観光交流課の ほか、魅力発信課や都市計画課、文化 財保護課など多くの関係課と連携し て、それらの事業も包含する形でのビ ジョン(案)にならなければ、重伝建 地区の整備など大きな変化が予想さ れる状況に対して、実効性のある計画 とはならないのではないのでしょうか。 観光交流課だけでなく、桐生市のかじ</p>	<p>だいたご意見は、関係する部署とも共有し、 今後の重伝建地区の整備と、観光施策に対す るご意見として、参考にさせていただきます。 す。</p>
--	---

	<p>取りをする方々の強力なリーダーシップを期待します。</p> <p>(3)結論として</p> <p>今後 5 年間で起こってくると予想される、インバウンドを含む観光客の増加（with コロナの状況前提）と重伝建地区の景観整備という大きなチャンスを生かすために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの観光客を呼び込むためのより積極的なプランの提案が必要 ・観光交流課だけでなく、トップのリーダーシップのもと、全市をあげた観光振興のための具体的な施策を期待。 	
6	<p>「第 3 章 推進計画」,「第 4 章 個別事業」に関して</p> <p>(1)「項目 1 日本遺産を活用した観光施策」について</p> <p>①「日本遺産の周知と PR」(P. 11、18 など)</p> <p>日本遺産を紹介したこれまでの私のガイド経験から、桐生市の日本遺産の魅力をパンフレット等だけで伝えることは容易ではないと思われます。ですから、日本遺産を重点項目とするならば、より多くの人々の注目を集める施策が望まれます。</p> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産を動画で PR ・日本遺産ツアーの実施 <p>②「重伝建地区の活用」P. 11、18 など)</p> <p>根本的な課題として、「重伝建地区」をどのような街並みとするのか、という基本となる構想が見えてきません。石畳と無電柱化を整備したとして、どんな街にするのでしょうか。観光行政の目玉として「重伝建地区」の活用を掲げるのであれば、具体的な提案が望</p>	<p>“織都桐生”案内人の会の活動は、観光行政にとっても重要なコンテンツと考えており、今後も（一社）桐生市観光物産協会と連携しながら、重伝建地区の整備とともに変化をする地区の周知や発信ができるような施策を展開していきたいと考えております。</p> <p>「オーダーメイド」型については、まずは観光客等のニーズに沿った、案内ができるようなシステム作りが大切であると考えていることから、観光素材の整理や分類、また今後の観光の動向なども見極めながら、個人のニーズに合った観光資源の紹介を検討してきます。</p> <p>桐生市観光情報センターの活用や、様々な観光施策のご指摘、発信方法のご提案などにつきましては、今後の桐生市の観光施策に対するご意見として、参考にさせていただきます。</p> <p>数多い観光素材の活用については、桐生の個性を活かし、観光客へ有効な発信ができるよう検討していきます。</p> <p>様々なご提案については、桐生市の観光行政を行うなかで、観光ビジョンに沿って事業が円滑に実施できるよう、今後の参考にさせていただきます。</p>

	<p>まれます。</p> <p>旧増尾邸の活用は、案内人の会としても、とても楽しい事業です。私たちとしてもいろいろとご協力が可能であると思いますので、具体的な活用方法を検討する際にご相談いただくとありがたいです。</p> <p>(2)「項目2 まちなかを活用した観光施策」について</p> <p>①「桐生市観光情報センターの活用」(P. 13、19 など)</p> <p>シルクル桐生の認知度を高める方法として、鉄道を利用して桐生を訪れる観光客や自動車で桐生を訪れる観光客にどう認知してもらうのか、という課題に対する具体的な方策が必要ではないでしょうか。桐生駅や新桐生駅などの目立つ所に掲示物やチラシなどを置いて情報提供を行うことはできないのでしょうか。観光物産協会だけでなく、桐生市のホームページやSNSなどで市外の人々にも周知させる方法が望まれます。</p> <p>(3)「項目3 周辺地域と連携した観光施策」について</p> <p>①「連携事業の実施」(P. 14、19 など)</p> <p>「オーダーメイド」型の観光ルート紹介方法の検討という方向性が示されていて、とても良いと思いますが、具体的な事業として示していただきたいと思います。</p> <p>②「広域連携による魅力発信」(P. 14、19 など)</p> <p>かつて、浅草で八木節を披露して桐生の観光をアピールする事業に協力したことがありましたが、コロナ後については、このような思い切った事業も検討してはどうでしょうか。</p>	
--	--	--

	<p>(4)「項目4 公民で連携した観光施策」について</p> <p>①「情報収集・発信体制の確立」(P. 15、20 など)</p> <p>“織都桐生”案内人の会のインターネット部会では、独自に観光 YouTube 動画作成のスキルアップを図っており、今後これらを桐生市のホームページ等で紹介していただけるとありがたいです。</p> <p>(5)「項目5 桐生市の特長を活かした観光施策」について</p> <p>①「新たな観光資源の収集・発信」(P. 16、20 など)</p> <p>「宿泊を要するほどの観光素材が少なく、日帰りが多い」(P. 16) という現状が述べられていますが、私は、観光素材はたくさんあり、桐生は、「日帰りではもったいない街」であり、「何度でも来てみたくなる街」だと考えます。大切なのは、桐生の観光素材をどのように魅力的な資源として集約して発信するかであると思います。そのため効果的であると思われるのが、項目3で述べられていた「オーダーメイド」型の観光ルートの紹介です。具体的には、観光客の個性やニーズに応じた多様な観光プランを開発して、有効な方法で発信することです。</p> <p>個性的なプランを発信するにあたっては、参加者への料金の補助や割引などの提案が望まれます。まず、観光客に興味を持ってもらうためのメリットをプランと合わせて発表することによって、より多くの集客につながるのではないのでしょうか。お得感やツアー自体の良さが SNS 等で拡散されることによってリピーターや観光</p>	
--	--	--

	<p>客増加に結びついていくのではないかと思います。まずは、桐生市としてこうした観光客の個性やニーズにあった魅力的なプランをどれだけ開発して、発信することができるかということではないでしょうか。</p>	
7	<p>タイトルについて</p> <p>観光基本計画をビジョン、かつ方向性に変更するのならば、その理由・必要性を市長が巻頭言で説明する必要があると考えます。</p>	<p>策定時には、巻頭に市長挨拶を掲載いたします。</p>
8	<p>ビジョン・方向性期間について</p> <p>本市は、毎回5年間の計画を策定しているが、観光地は、その地域の長い自然的特性・歴史・文化が創り出すものです。ディズニーランド等の巨額な資金を要する施設物を除き、観光地づくり・観光振興は5年間では、全くできません。日本中・世界中の観光地の全てが然りです。</p> <p>最低10年、20年、30年後を見据えた計画、ビジョン、方向性を示すべきではないでしょうか。</p>	<p>近年まれにみるスピードでデジタル化をはじめ、社会の多様な変化が起きていることに加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光のあり方にも大きな変化が生じており、長期間の計画では時代との齟齬が生じる恐れがあると考えたため、5年間の計画としたものです。</p>
9	<p>基本的なこととして、以下の点をきちんと整理する必要があると考えます。</p> <p>(1) 何故、新計画の最上段に（行政案）とあるのか。他に別な案・目的があるのでしょうか。</p> <p>(2) 前計画からビジョン・方向性に名称が変わった。変更した理由・必要性を示すべきです。コロナなど小さな問題です。</p> <p>(3) 前計画と新計画の大きな相違点を明確に示すべきです。</p>	<p>今回示した「桐生市観光ビジョン」（案）と前計画との相違点につきましては、前計画では短期計画と長期計画のなかで地域資源を観光資源として活用し、観光を新たな「産業」として位置付けて、地域活性化を図ることを目標としていましたが、今回のビジョンでは、大きな方向性を示したうえで変化に柔軟に対応できるものとしていくため、推進項目を設定して個別計画を実施することで、個性を活かした観光振興を図ることを目標としており、観光客や顧客となる消費者のライフスタイルとニーズにいかに早く順応し、個性ある質の高いサービスを提供できる方向性が復活のカギになると考えられることから、様々な事態に柔軟に対応できるビジョン</p>

		<p>にしております。</p>
<p>10</p>	<p>本ビジョン・方向性においては、桐生市の観光の目玉は何にするのかの視点からの議論がなされたのでしょうか。</p> <p>①大前提</p> <p>桐生は、東京や大阪や京都とは、歴史も立地も違う。</p> <p>桐生は、川越や小布施や湯布院の観光地づくりに学ぶことが不可欠である。</p> <p>桐生よりも遥かに観光資源が数多くあって、歴史遺産だけに頼った萩・津和野・日光の観光の衰退を見習ってはならない。</p> <p>川越も小布施も湯布院も、桐生市が5年毎に策定している極めて短い期間の計画やビジョンで、現在の観光地づくり、街づくりが出来たのではないことは十分に御存じのことと思います。</p> <p>私が定点観測している小布施は、葛飾北斎・栗をコンセプトにして、町と行政が一体となった面的な街づくりを開始し、40年の歴史が経過して、ようやくあそこまで来ました。</p> <p>地域住民と為政者の夢と希望に基づく長期的な計画と実践があり、その本物性・有望性を知った民間企業の進出があって出来上がったものです。計画と実践に、町全体の心が通っていたのです。</p> <p>桐生は、これらのことを十分に認識した、中長期的な観光基本計画を策定すべきであり、その計画をただただ実践しなければならないと考えます。全ての根源は、『継続は力なり。』です。本気で、『桐生の持つ特質を生かせる</p>	<p>様々なご提案やご意見につきましては参考とさせていただき、施策の実効性や得られる効果を勘案しつつ、どのような施策を提唱していくべきかを、本ビジョン策定後も検討していきたいと考えております。</p>

<p>もの』を為政者が見つけ出し、それを公約として責任を持って実践することです。</p> <p>見つけ出すポイントは、策定委員会などではなく、為政者の真剣な心です。</p> <p>これからは、桐生にしかできない、桐生にしかないものを観光に結び付ける、新たな着眼点からの具体的な施策を考えるべきであると考えます。</p> <p>例ー1 吾妻山・鳴神山・根本山・茶臼山・桐生川等の桐生の財産である水と緑の面的活用・整備方策</p> <p>例ー2 桐生が岡公園・桐生が岡遊園地・桐生が岡動物園・吾妻公園等ファミリー及び低学年向け施設の面的活用・整備方策</p> <p>例ー3 1300年の歴史を有する桐生織物を中心としたその産業遺構群、展示施設の面的活用・整備方策</p> <p>例ー4 桐生市内に点在する社寺仏閣及びその歴史・庭園・文化財に着目した面的活用・整備方策</p> <p>例ー5 桐生での10時から14時まで楽しむ桐生短時間観光ルート、8時から17時まで楽しむ桐生観光や満足ルート、桐生で一泊して桐生を思い切り楽しむ桐生満足観光ルート等、桐生をフレキシブルに、何度も訪れる楽しみを持たせる複数の観光ルートの発掘・面的活用・整備方策</p> <p>② 産業観光</p> <p>桐生の織物は、1300年の歴史を有すると言われていています。この織物には、養蚕・製糸・染色・糸繰・管巻き・整経・図案・紋切り・機織り・精錬等様々な工程があります。織機を直す鍛冶屋・溶接屋も関連産業でした。</p>	
--	--

	<p>桐生には、その各工場・事業所がありました。これらがあって織物の町『桐生』を形成していたのです。</p> <p>織物の町『桐生』をコンセプトにするか否かは別として、1300年の歴史が、そのポテンシャルを生み出したのですから、きちんとした『織物観光産業』を考えることも必要だと考えます。</p> <p>今回のビジョン・方向性の中で、この言葉が消えたことは、残念でなりません。</p> <p>③ 桐生の持つ『水』と『緑』</p> <p>桐生の持つ『水』と『緑』は、桐生市民の生活の財産であるとともに、この財産が首都圏 100 キロ圏内にあることに着目することが大事・必要だと思います。</p> <p>この『水』と『緑』を活用した『観光の在り方』を本ビジョン・方向性の中で考えるべきだと思います。</p> <p>④ 重伝建地区の整備</p> <p>重伝建地区整備の基本方向のキーワードは、『簾（すだれ）』と国立公園特別保護地区カラーの『こげ茶と白』での『景観構成』です。</p> <p>このことは、地域住民との理解と協力が必要で、行政の継続した、かつ確たる『インセンティブ』・『覚悟』が必要です。</p> <p>これなしでは、重伝建地区の整備は進みません。最低 10 年計画で進めることです。</p> <p>これを示すことが観光ビジョンであり方向性の一例だと考えます。</p>	
--	---	--